

2022年度全日本吹奏楽コンクール 課題曲 Clarinet ワンポイント・アドバイス

吹部
Navi

■はじめに

2022年度全日本吹奏楽コンクール課題曲ワンポイントアドバイスのクラリネット編は運指にまつわるワンポイントです！楽器別講習会やレッスンを受けた経験も少なく、実は運指がこれで合っているのか心配…とても不自由な運指で困っているけれど運指表を見てもどの指が上手いくのかわからない…音程が合わせにくいので何か変え指があったら嬉しいな、など。クラリネットパートの皆さんの運指のお悩みに、少しでもお役に立つことが出来れば幸いです

I やまがたふあんたじい～吹奏楽のための～

作曲：杉浦 邦弘

- 5小節目～7小節目 1st, 2nd (div.の上の段) のトリル。音程が高くなりやすく、不安定な音になってしまって悩んでいる人もいられるかもしれません。そんな時は図1の指使いのように下管を押さえて、弱奏でも下管まで息の柱を通しておくと吹くと少し安定しやすくなります。その楽器の音程の癖や調整の加減によっても音程音色に違いがあると思います。普通のラのキでトリルをすることも出来ますが、図2のトリルキを使って演奏することも可能です。その場合は右手を使うため下管を押さえるのは難しくなりますがこちらの方がよりスムーズにトリルをしやすい場合もあるでしょう。
- 52小節目～ 1st, 2nd, 3rd に「ラ」の音が出てきます。複数人で吹いて音程を合わせたい時、チューニングをちゃんとすることに加えて、自分の楽器や吹き方に合わせて下管と左手の薬指も押さえてみましょう。色々な押さえ方を試して、音色や音程が一番しっくりくるパターンを探してみると良いと思います。もちろん指を押さえるだけでなく、下管まで息の柱をしっかり作るイメージで吹くことが大切です。押さえ方の例は図3を参考にしてみてください。
- 192小節目～194小節目 1st, 2nd (div.の上の段) は通常の運指で出来れば良いのですが、難しく感じる人が多いと思います。そこでこんな替え指もあります。図4を参考に練習してみてください。同じ場所の 3rd, エスクラも通常の運指では難しいと感じる場合は、図5にこちらの替え指もあります。

II マーチ「ブルー・スプリング」

作曲：鈴木 雅史

85小節目、1st の「シ♭」のトリル、同じく107～108小節目 1st, 2nd, 3rd のトリル。2種類の指使いが考えられます。どちらも音程は安定感のある運指ですので、自分のやりやすいと感じる運指を探してみましょう。図6参照。

III ジェネシス

作曲：鈴木 英史

29小節目、2nd 「レ♭」は前のラ♭から降りてくると右手の小指（図7）でとりますが、次の音がミ♭なのでミ♭のキを同じく右手の小指で押すことが出来ず困ってしまいますよね…そんな時は「持ち替え」という技を使います。図7のように瞬間的に右手の小指のレ♭から左手の小指のレ♭に押し替え、そうすることによって次に右手の小指でミ♭を押すことが出来るようになります。

IV サーカスハットマーチ

作曲：奥本 伴在

- 1～2小節目 1st のトリル。マーチとしてはテンポが速めの設定の曲ですのでトリルを演奏する速さも必然的に速くなりますね。通常の指使いでトリルも可能ですが、速さを揃えて正確に演奏しようとする場合、図8の右手を使った運指もおすすめです。
- 5小節目の 3rd の半音階を演奏する時は下管をふさいだまま演奏することで滑らかに演奏することが出来ます。（図9）
- 60小節目 1st のトリルは「ラ♭」と「シ♭」のトリルになります。音間違いに注意しましょう。運指は図10参照。

2022年度全日本吹奏楽コンクール 課題曲 Clarinet ワンポイント・アドバイス

吹部
Navi

V 憂いの記憶 - 吹奏楽の為の

作曲：前川 保

- 47小節目 1st の「シ#⇔ド#」のトレモロ、47小節目エスクラの「ド#⇔シ#」のトレモロ。この場合は図11のように二つのキイを同時に押したり放したりして演奏することができます。
- 59小節目 1st の「ソ♭」はクレッシェンドした先にある音でアンブシュアが緩んでしまったり、口の中が広がってしまうと音程が下がってしまうこともあるかもしれません。より安定した音、息のコントロールで演奏するためには図12の運指を使うことも出来ます。
- 6小節目バスクラの「レ#」のトリル（図13）の指を使うことも出来ます。こちらの運指は上管と下管のジョイント部分の組立がきちんと合っていないと出すことが出来ません。出しにくいと感じる場合はジョイント部分を確認してみましょう。

運指表

※運指表の見方…赤い部分は押さえる、青い部分はトリル、トレモロなどの時にそこを押さえたり離したりして演奏します。

図1	図2	図3	図4	図5	図6	図7

下管の押さえ方の一例です

瞬間的に右手の小指から左手の小指に持ち替えます

図8	図9	図10	図11	図12	図13

下の音を演奏するときに運指表の赤の部分を押さえたまま演奏します。それによって「シ」の音となめらかに繋げることができます